

(平成17年1月12日発行)

# 会報

## 第11号

北海道高等学校世界史研究会

事務局 北海道当別高等学校

☎061-0296

石狩郡当別町字春日町84-4

☎(01332) 3-2444 / FAX(01332)3-2380

## 新たな歴史教育に向かって

北海道高等学校世界史研究会  
会長 戸出秀邦  
(北海道北見仁頃高等学校長)

2004年と言えば、ギリシアのアテネ・オリンピックでしょう。しかし、道民にとっては、第86回全国高等学校野球選手権大会で、全国高等学校の頂点に立った駒沢大学付属苫小牧高等学校が深紅の大優勝旗を初めて北の大地、北海道にもたらしたことであり、まさに本道高校野球界にとって歴史的な勝利であり、関心を一手に占めたものでした。われわれ高校教育に携わる教員として、よくやったとエールを送りたいと思います。さらに大リーグでは、イチロー選手が年間最多安打の記録を更新する262安打を放つ活躍をし、大リーグの歴史を84年ぶりに塗り替えるなど、新たな歴史を刻んだ年ではなかったでしょうか。アメリカのメディアは「かつて日本にいたイチローはシアトルに飛び、今や歴史になった」と報じ、「今日の新記録がマリナーズにとって最も歴史的な出来事となった」と伝えています。こうした歴史を刻む個々の活躍を、われわれ歴史教育に携わる教師としては、時として生きた歴史を教える価値があるのではないのでしょうか。

さて、今、教育改革における様々な取り組みが各学校で推進されております。21世紀に「主体的に生きる人間」を育てるために、柔軟に、そして創造的に物事を思考する生徒を育てていかなければなりません。

学校教育もそのために教育内容や指導方法の改善に取り組んでいるところです。これからの時代の流れの中で、学校教育に携わる教師は、これからの教育に向けて研鑽を深め、多様化してきている生徒の指導に工夫を凝らしていくことが大切です。

一方、どのような時代であっても、社会がどのように変わっても、人間として身につけるべき基礎・基本の育成を、教育の根底にすえなければなりません。

高世研は、本年度第36回の歴史を教えます。世界史教育に携わる教師が、高世研に結集し、新しい時代に生きる世界史の教師としての力量を高め、その役割を認識し、諸課題の解決に当たっていただきたいと思います。

明日からの世界史の教育に向けて、少しでも変容があることを願っております。

---

## 第35回研究大会記録

日 時	平成16年8月6日(金)		
会 場	札幌市教育文化会館 講堂		
講 演	菊池 俊彦 氏	(北海道大学大学院文学研究科教授)	
研究発表	岩崎 和義 氏	(北海道有朋高等学校)	
	横山 茂 氏	(北海道有朋高等学校)	
司 会	川音 強 氏	(北海道札幌稲雲高等学校)	
	長峯 博之 氏	(北嶺高等学校)	
記 録	原田 壽之 氏	(北海道北見北斗高等学校)	
	山本 一郎 氏	(北海道札文高等学校)	

---

講 演
-----

### 「環オホーツク海古代史の研究」

北海道大学大学院文学研究科 教授

菊池 俊彦 氏

#### 【問題提起】

唐の貞観14(640)年、長安を去ること1万5千里の遠方にあるという流鬼(りゅうき)の国から長安に朝貢使節がやって来た。流鬼国の所在地はサハリンだったと考えられる。『通典』流鬼伝によれば、靺鞨(まっかつ)の中には海に乗り出して流鬼の国に行き、交易する者があり、唐の国家の繁栄ぶりを伝えたところ、流鬼国の王は唐に朝貢使節を派遣したという。『唐会要』によれば、貞観14年に黒水靺鞨が長安に朝貢に訪れているから、流鬼の朝貢使節は黒水靺鞨の遣唐使と一緒にやって来たのだろう。

では、流鬼の遣唐使は朝貢の際に、貢物として何を持って行ったのだろうか？ また靺鞨は何のために流鬼の国、すなわちサハリンに交易に行っていたのだろうか？

7世紀にサハリンにあった考古学上の古代文化はオホーツク文化〔後3・4～12・13世紀〕であり、オホーツク文化にはアムール河と松花江流域の靺鞨の古代文化

で、ロシアの考古学者が言う靺鞨文化〔4～9世紀〕、中国の考古学者が言う同仁（どうじん）文化〔5～10世紀〕から、さまざまな金属製品や装飾品がもたらされていた。オホーツク文化の人たちは、それらの大陸製品を手に入れるために、何を引き換えに手渡していたのだろうか？

また、オホーツク文化の遺跡からセイウチ（海象）の牙から作られた彫刻の女性像や動物像、釣針や銛先が発見されている。セイウチの生息域はベーリング海である。そのようなセイウチの牙は、どのようにしてオホーツク文化圏にもたらされたのだろうか？ セイウチの牙は靺鞨の産物として『唐会要』靺鞨伝に記されている。さらにセイウチの牙は唐・宋・明代に中国東北の産物として史料に記されている。すなわちセイウチの牙は、はるか遠いベーリング海から中国に運ばれていたのである。しかしながら、では誰が、どのようにして、それをオホーツク文化圏や中国に運んだのだろうか？

知られざる環オホーツク海の古代史について、それをどのようにしたら、明らかにすることができるのか、考古学の資料と中国史の史料の検討の方法を述べてみたい。

## 【中国東北の貂】

中国東北では古代から、貂皮が特産品として中国の歴代の王朝に知られていた。漢代から三国時代の状況について、『後漢書』東夷伝には夫余（ふよ）、挹婁（ゆうろう）、東沃沮（ひがしよくそ）、濊（わい）の条に、『三国志』の「魏書」東夷伝には同様に夫余、挹婁、東沃沮、濊の条に、その地は貂（テン）を産出すると記されている。特に挹婁の貂皮は良質で有名だった。『晋書』の東夷伝にも同様に夫余、肅慎（しゅくしん）の条に、その地は貂を産出すると記されている。肅慎とはまたの名を挹婁というところから、内容は変わらない。

南北朝時代の状況について、『魏書』の勿吉（もつきつ）伝、失韋（しつゐ）伝、契丹（きつたん）伝にも、それらの土地には貂が多いことが記されている。『北史』の勿吉伝、室韋（しつゐ）伝、契丹伝の記述も同様である。特に契丹の貂皮は良質と評価されている。

隋・唐代の状況について、『隋書』北狄伝には室韋の条に貂が多いと記されている。『旧唐書』北狄伝の契丹、室韋の条にはいずれにも、そこから良質の貂皮が朝貢の際に貢納されると記されている。『新唐書』北狄伝の契丹、室韋の条の記述も同様である。『新唐書』北狄伝の黒水靺鞨の条には、その地には貂が多いと記されている。『冊府元龜』巻 971、外臣部の朝貢には、渤海が貂皮を朝貢の際に貢納していることが記されている。

このように中国東北の諸民族の土地には貂が生息しており、その貂の毛皮が朝貢品として中国に漢代から知られていた。

## 【靺鞨と流鬼の貂皮交易】

『唐会要』靺鞨伝によれば、貞観 14 年に黒水靺鞨は朝貢している。その地では貂の皮が多く産出するという。『新唐書』東夷伝の流鬼の条によれば、貞観 14 年に流鬼の王は子の可也余志（かやよし）を唐に派遣し、貂皮を貢納したという。

サハリンにあった流鬼の王は唐への朝貢使節に貢物として貂の皮を持たせてやったのである。そのことはサハリンでは良質の貂の毛皮が採れることを示している。サハリンの貂は大陸と同様にクロテンであり、その毛皮は黒褐色で、良質である。まさに朝貢品にふさわしい。靺鞨、特にそのうちの松花江下流域・アムール河下流域に居住する黒水靺鞨は自分たちの土地で捕れる貂の毛皮だけでなく、さらにサハリンにまで交易にやって来て、流鬼と交易し、サハリンの貂皮を入手していたのであろう。

そのような黒水靺鞨と流鬼の交易を通して、靺鞨文化の人たち、つまり靺鞨からサハリンのオホーツク文化の人たち、つまり流鬼に大陸製品がもたらされ、流鬼はこれと引き換えに貂の毛皮を手渡していたのである。サハリンのオホーツク文化圏にもたらされた大陸製の金属製品や装飾品は、次いでサハリンから北海道のオホーツク文化の人たちのところにもたらされた。

## 【環オホーツク海の海象牙交易】

オホーツク文化の遺跡はサハリン、北海道のオホーツク海沿岸、千島列島に分布している。このオホーツク文化の遺跡からセイウチ（海象）の牙から作られた女性像が、礼文島から 2 例と網走から 1 例発見されている。またクマやシャチの動物像が礼文島から 1 例と湧別から 3 例出土している。またセイウチの牙を素材とする釣針や銚先などが礼文島から 3 例出土している。

セイウチの生息域はベーリング海である。そのようなセイウチの牙をオホーツク文化の人たちはどのようにして手に入れたのだろうか？ セイウチの牙を素材とする銚先がオホーツク海北岸の古コリャーク文化〔5～17 世紀〕のナヤハン遺跡から出土している。またセイウチの骨がオホーツク海北西岸の初期鉄器時代〔1～10 世紀〕のクフトゥイⅧ遺跡から出土している。古コリャーク文化とオホーツク文化の土器や骨角器はよく似ており、両文化の間には何らかの交流・交易があったと推測されている。おそらく、そのような交流・交易を通して、セイウチの牙はカムチャツカ半島北東岸からオホーツク海北岸～北西岸を經由して、サハリンに、そして北海道にもたらされたのであろう。

## 【中国にもたらされた海象牙】

セイウチの牙は唐代に中国に知られていた。『唐会要』靺鞨伝には、その地の産物として骨咄角（こつとつかく）という物品が挙げられている。『新唐書』地理誌には、今日の遼寧省朝陽市にあたる営州からの貢納品として骨咄〔の角〕が挙げられている。

宋代の『松漠紀聞』には契丹のところには骨咄の角があり、それは象牙のような物であり、極めて貴重品であると書かれている。すなわち、骨咄の角とは、セイウチの牙であることが分かる。

明代の『遼東志』にはアムール河下流域の女真の産物として兕角（しゅかく）、『大明一統志』と『大明会典』には松花江流域の女真の産物として殊角（しゅかく）が挙げられており、いずれも海の象牙であるという割註が添えられている。

このようにセイウチの牙は唐代、宋代、明代とわたって、中国東北から中央の長安・開封・北京にもたらされていたことが分かる。したがってのはるかベーリング海のカムチャツカ半島北東岸で捕獲されたセイウチから採れた牙は、上述のルートを経由してサハリンに運ばれただけでなく、さらにアムール河を、次いで松花江を遡上して、中国東北の諸民族によって皇帝に献上されていたのである。

## 【おわりに】

19世紀～20世紀の文献によれば、セイウチの牙はサハリンのニヴフ民族（旧称ギリヤーク）やアムール河下流域の人たちのところで珍重されていた。つまり、唐代の環オホーツク海のセイウチの牙交易は近代に至るまで継続されていたのである。同様に19世紀の文献によれば、サハリンのクロテンや北海道のエゾクロテンの毛皮はいわゆる山丹（さんたん）交易を通して大陸に運ばれ、それと引き換えに、いわゆる蝦夷錦がもたらされていたことはよく知られている。

環オホーツク海の古代史は、これまでほとんど知られていなかった。しかしながら、中国の史料を丹念に読み込み、また考古学の資料を活用することによって、今後もしろいろな事実の解明を期待することができるだろう。

## <質疑応答>

### Q 1

本日はどうもありがとうございました。中国の歴史書で貂が貴重と言われているのに対して、17世紀に入ってロシア人がシベリアの方まで入ってきましたが、これに対して、中国の人はどうして戦ってまで守ろうとしなかったのかを教えてくださいと思います。  
(旭川北・石川)

### A 1

ロシア人はシベリアに進出してアムール河上流域までやって来ました。これに対して清朝はアルバジンの砦でロシア軍と数回にわたる小競り合いの戦いを行って、中国はこれを防衛し、そしてネルチンスク条約が結ばれました。その結果、中国はアムール河流域の貂の生息圏を守りました。

### Q 2

このあたりの文化について私も多少関心があり、今日は大変興味深く聞かせてい

いただきました。礼文島の船泊のあたりの遺跡から、遊牧民族起源の金属器が発掘されたという記事をホームページで見たことがあります。今日の講演に出て来た北方民族も、中央アジア方面の遊牧民族と交流し、さらに、礼文島との交易で波及して来たことを想像したりもしました。遊牧民族と北方民族との交流がうかがえるようなものが、先生のご存知の史料に存在するのでしょうか。そのあたりをお聞きかせいただければと思います。

(釧路北陽・窪田)

## A 2

それは、正確には船泊（ふなどまり）から発見されたのではなく、利尻島の種屯内（たねとんない）というオホーツク文化の遺跡から発見されたマッコウクジラの牙から作られた婦人像のことを指して言っているのだと思います。

なぜ、牙製婦人像が遊牧民族の文化につながるのかと言うと、牙製婦人像は、北海道を除くと、アムール河上流をさらに遡ったセレンガ川流域（旧モンゴル人民共和国、今日のモンゴルウルの東方）の遺跡から、マッコウクジラの牙から作られた婦人像（高さ7 cm くらい）が発見されたのが、唯一の類例です（今から50年ほど前に発表された）。この点に注目して、「遊牧文化とオホーツク文化は関連があるのではないか」という説が1970年代に発表され、「オホーツク文化は遊牧文化と結びつくのではないか」と言われるようになりました。その結果、筑波大学の加藤晋平先生が「オホーツク文化は大陸文化との関係が強い」と言い、そのことから「オホーツク文化と遊牧文化との関係」がエッセイ等で誇大宣伝された時期がありました。その影響が今でも残っています。

もうひとつは、1950年頃に東京大学の駒井和愛先生がモヨロ貝塚の発掘後に「オホーツク文化と大陸文化の関係」について盛んに力説しました。その後、常呂町の栄浦（さかえうら）遺跡の擦文文化の住居址近くから、青銅製のボタン（サイズは10円玉くらいの大きさ）が発見されました。駒井和愛先生は、この青銅製のボタンがウクライナの黒海北岸、あるいはその周辺のスキタイの遺跡から発見されるボタンとそっくりだったので、これを「スキタイのボタン」と名付けました。このことから、遊牧民族とオホーツク文化（オホーツク文化からそれが擦文文化にもたらされたのですが）の関係が取りざたされました。

しかしながら黒海北岸のスキタイのところから、それが常呂までもたらされたという説明には疑問が残ります。実際に、青銅製のボタンは紀元前5世紀くらいから北アジア地域において、スキタイでなく、オルドス地方（黄河の湾曲部分）の匈奴の遺跡からも発見されています。このような青銅製のボタンは、ズボンをはき、ボタンの付いた服を着る遊牧民が発明したものと考えられています。こうしたボタンを発明したのはスキタイだったことでしょう。でも、必ずしもスキタイに限らず、匈奴、あるいは鮮卑、そして突厥もボタンの付いた服を着ていました。それが靺鞨文化の人たち（馬に乗っていた）を通して、オホーツク文化にもたらされ、そして擦文文化の栄浦の遺

跡で発見されたのです。それを、駒井和愛先生が「スキタイのボタン」といったことから話が大きくなり、遊牧民族との関係が大きくなり取られたのです。

**Q 3**

今のところ、まだ「オホーツク文化と遊牧文化との関連については、断定的なことは言えない」というように捉えてよろしいのでしょうか。（釧路北陽・窪田）

**A 3**

遊牧文化は何を指すのかという問題があります。それを定義しないと話が進みません。靺鞨は、例えば、北魏の王朝に5世紀（487年）に朝貢に行っています。その際に「名馬500匹を献上した」と中国の史料に記されています。この史料から、靺鞨は馬に乗っていたことが分かります。さらに「富める者は豚を数百匹も有す」とあります。豚を飼う遊牧民はいません。しかも「靺鞨の土地では黍、麦が採れる」とも書かれています。松花江流域は豊かな農耕地帯です。ここに居住していた靺鞨は、馬を飼い、豚を飼い、黍や小麦を栽培していた、と読み取ることができます。

だから、遊牧文化と言った場合に、それがモンゴルのように羊を飼う遊牧民族の文化を指すとすれば、遊牧文化は北海道に入って来ていないと考えられます。でも、遊牧文化の一部、あるいはその末端は入って来ていると言ってもよいでしょう。

**Q 4**

今日は本当にありがとうございました。「流鬼」という国のこの名前が、民族の名前なのか分かりませんが、「流鬼」を表わすのではないかとされる民族名が、他の史料に出て来る例はあるのでしょうか。（函館東・辻田）

**A 4**

サハリンの住民が唐代にこの文字以外で出て来る史料は、まったくありません。「流鬼」と書いて、これがどのように発音されていたのか、残念ながら分かりません。唐の時代の発音から言うと、おそらく「ルキ」あるいは「リュウキ」という音に対応して、この文字が選ばれたのでしょうか。サハリンの人たちが自分たちのことを「ルキ」あるいは「リュウキ」という音に近い発音で、そう称していたことになります。

一方、中国ではなぜ、この文字を選んだのでしょうか。なぜ「流鬼」という文字で表わしたのか。鬼は東北に住んでいます。つまり鬼門の方角です。東北からやって来た使節だから、キの音に、この字を選んだ。「流」は、彼らが海の中の島に住んでいるという意味で、この字を選んだのではないのでしょうか。「東北の海の中の島に住んでいる人たち」ということから、流鬼という文字を選んだ、私はそう考えています。

## 研究発表

### 「国際理解を進めるための 世界史教育」

北海道有朋高等学校 教諭

岩崎和義 氏

#### 有朋高校について

平成3年度に本道唯一の単位制課程を設定。年間8000人を超える中途退学者への対処として学年制にとられない学校づくりを推進し、今年度で14年目を迎えた。普通科3間口、事務情報科2間口。本校の一番のメリットは生徒が自分の将来を見越しての完全選択制をとっているところである。事務情報科では3年間で25単位の修得が必要。それ以外は開設講座の中から自由に選択する。生徒個々の学力差が大きいので、英数国で基礎講座を開設し、中学時の復習から行っている。(有朋高校カラーパンフレット参照)

世界史は90分授業を年間60回で4単位の授業を実施している。(資料P2)

#### 平成8年度に行った教育実践より

ヘレニズム文化までを10時間かけて授業を行なった。90分授業は非常に長いので導入を重視している。生徒に対して意外性や驚きを感じさせる写真、具体物で生徒の興味・関心を引っ張らないと90分は持たない。教材、素材の吟味による内容の発展性を作っていかななくては

いけない。展開では教科書、ドリルなどを使い知識の定着を図るとともに、一斉学習の中に調べ学習を入れ、個別化を図っている。まとめでは学習の感想を発表させたり、VTRなどを使い、イメージをふくらませる。

#### ギリシア文化の具体的実践例より

エーゲ文明の学習の導入で地中海性気候の説明の上で、イメージをふくらませるために糸杉の写真を見せ、気候が穏やかだということを印象づける。古代にあって、ギリシアは緑豊かな土地であったが、羊・山羊の牧畜が盛んだったので、根まで食べられ、やせた土地になってしまった。ポリスが形成された時からそのような状態であったために農業があまり発展せずに商工業が盛んになったこともあり海外に進出していった。

クレタ文明では排水溝や上水道、水洗トイレなどの写真を提示し説明。このような設備がこの当時にあったということは文化的なレベルが高かったことをあらわしている。しかしサントリーニ島の爆発でクレタ文明はかけりを見せ始め、ミケーネのアカイア人の侵略により崩壊した。ポリスの成立の授業にあたって、アクロポリスの写真を提示する導入を実施した。ギリシア人は異民族に対する政治的統一性を持っていた。同胞意識高揚のために4年に一度のオリンピック競技を開催していたが、これはゼウス神に捧げる祭典競技という性格もあったために4世紀にローマ皇帝によって中止された。今年はオリンピックイヤーなので関連づけて説明すると面白い。

ギリシア人の生活を支えたのは奴隷の存在である。特にスパルタは5000人のスパルティアタイに対して50000人のヘロットがいたわけだから一人のスパルティアタイが10人のヘロットを監視する必要があった。この人口比

がスパルタ教育というシステムを構築した。

B. C. 480年のテルモピレーの戦いで一人の脱落者がいなかったことは、今日でもギリシア人の誇りになっている。

ミケーネ、ティリンス、ピュロスに築かれた堅固な城塞都市が崩壊していったのは青銅器文明のミケーネ文明に対して鉄器文明を持った海の民やドーリア人の攻撃によるものだと考えられる。シュリーマンが発見したミケーネから金が1tも出土したことから豊かさが判るとともに銅はキプロス、金はエジプト、象牙はシリア、琥珀はバルト海、錫はブリテン島から出土されたものであり、B. C. 1500年代に各地との物質を通じての交易ネットワークが形成されていたことがわかる。このような話をすると生徒は興味深く聞いていた。

## 指導を終えた感想

導入段階での視聴覚教材の提示による興味・関心を引き出し、展開では個別指導を心がけ、まとめではわかったことや驚いたことなどの感想やイメージ化を図る手だてを心がけている。また、本校に来ている科目等履修生からの体験を語ってもらったところ生徒はしっかりと聞いていた。国際理解教育ということになるとギリシアの学習を通じて日本の歴史文化や他国に目をむけていくような指導が大切だと思う。相違点だけを追うのではなく、共通点を見ていくことが大切。ギリシアの祝祭日はギリシア正教会にちなんだものが多いが、中には「オヒ・デー」のようなものもあり、ギリシア人のプライドの高さがうかがえる。

ギリシア人の気質として「明日のことは明日しよう」という風潮がある。生活を楽しむために働くんだという姿勢があり、1～2か月のバカンスは当たり前。今年のオリンピックにあわせ、オリンピック＝レーンが建設されたようだ

が、パルテノン神殿の大理石が排ガスにより破損されているために車のナンバーの末尾で乗り入れ制限をしている。これは古代からの財産を守ろうとする気持ちのあらわれであり、日本では考えられないだろう。また、ブドウやオレンジは品種改良をせず、無農薬で育てている。これも昔の人と同じような文化を共有したいというギリシア人の気質だと思われる。

## 「単位制における世界史の授業」

北海道有朋高等学校 教諭

横山 茂 氏

採用されてから職業高校、夜間定時制、全日制普通科、単位制と多様な校種を経験してきたが、単位制が一番難しいと感じている。それは、さまざまに事情を抱えている生徒がいるために実態の把握が難しいからである。また、生徒の学力差が大きいためにどの生徒に照準を合わせるかが問題になる。考査では平均が30点前後だったため、50点を超える考査を作ることを自らのノルマに課し、それが達成できるようになった。全体に学力が低いために90分授業の展開が課題になっている。

今回の研究発表にさいして観点別評価を取り入れた授業を考えてみた。フランス革命を題材に3回の授業を実施した。小中学校では観点別評価に関するさまざまな資料が出版されているが、高校のものは全然無い。そこで、昨年度の10年目研修のテーマとして作成された観点別評価を導入した授業計画などを参考に①フランス革命を小単元とする90分授業の指導案 ②考査問題 ③定期考査のための観点別評価の設定 ④授業反省 を作成した。

## 授業の進め方

自ら作成したサブノート（資料P5）を使って60～70分説明を行っている。板書では時間的に厳しいため、授業に効率化を図ることと要点の明確化することを目的に使用している。空欄を埋めていくと単調になりがちなので図解や音楽などの変化をつける。残りの時間で用語の定着を図るために自作の「重要歴史用語」を使って確認させている。このプリントは教科書と準拠した形になっている。

## 小単元の観点別評価基準の設定

「フランス革命の開始と展開」の小單元ではアンシャン・レジームから国民議会までが範囲である。「関心・意欲・態度」ではアンシャン・レジームとはどのようなものであったか。革命の諸原因と革命の気運の高まりについて、興味の高まりについて、興味を示し意欲的に学習に取り組むようにさせる。「思考・判断」ではフランス革命の諸原因について正しく考察させ、特権身分と第三身分の対立の理由について正しく判断させることを主眼においている。「資料活用の技能・表現」については革命前の3つの身分が総人口に占める割合、各身分の土地所有比率を正しく数量化できるかを山川出版社『世界史Bワークノート』を使い演習させている。この問題集は観点別評価の視点から非常に優れていると言える。

## 観点別評価を導入した指導案

興味・関心を高めるためにフランス国歌「ラ＝マルセイエーズ」を使った。【ここで曲を流す】このように単調にならないように工夫をしてきた。フランス革命は様々な人物が登場し、短い

年月でたくさんの出来事がおこっていった。フランス革命の流れをどのように整理すればよいか。その反省のもとに資料P4右下のまとめを作成した。このような形をとれば、わかりやすいと考えた。

## 考查結果による授業の反省

「関心・意欲」についてはもっと説明を平易にし、わかりやすくする工夫と豊富なエピソードで興味を高めたい。「思考・判断」では説明事項が生徒に十分に伝わっていなかったことがあげられる。「資料活用の技能・表現」では計算方法を理解していない生徒がいたことや分析・考察したことを表現できる力が身に付いていない。

「知識・理解」では説明を簡潔な中にもわかりやすくする工夫が必要であるし、小テストの実施などが求められる。

まとめると、①わかりやすい教材の作成②内容の精選③発問の工夫や定着度を高める工夫④家庭学習の徹底化があげられる。

## 19世紀のパリの熟練工の生活について

秋休みを利用して19世紀のフランスの様子を生徒に調べさせる機会を設けた。七月革命・二月革命期の労働者の実態をわかりやすく伝えたいと考えた。『19世紀パリ社会史』を参考に資料を作成した。この本は19世紀パリの手工業熟練労働者の生活実態、変化、要求がわかりやすくまとめられている。イギリスではラッドイト運動から機会打ちこわしへ移行していったが、フランスでは手工業者がまだ役割を担っていた。1840年代から既製服の流入により手工業者が失業していった。そのためにストライキなどの労働運動が高揚していったが、政府は

「レッセ＝フェール」の姿勢から不介入だったため、労働者は経営者に対して運動をおこなっていった。政府は失業の原因を労働者の怠惰な姿勢からだとし、労働者に対する道徳化、規律化を求めていった。これを思考してもらうために秋の課題とした。

暗記中心から観点別評価を取り入れることで発想を切り替え、生徒が主体的に、自分たちが中心で学んでいけるようにしていきたい。

## <質疑応答>

Q 1 : 観点別評価をした場合にそれぞれの観点ごとに数値化をするのか?

(苫小牧総合経済・五味)

A 1 : この観点を年度当初に設定していなかった。自分自身の授業反省のための取り組みに過ぎないので現段階では細部まで至っていない。

Q 2 : 生徒の授業中の様子を聞かせてもらいたい。

(沼田・菊池)

A 2 : 学年制ではないので、私語はほとんどない。ただ、難しすぎると寝てしまうので机間巡視や呼びかけを行っている。

Q 3 : 出張などで抜ける場合に世界史以外の教諭が入った場合どうしているのか。

(札幌旭丘・宮浦)

A 3 : 日程変更は不可能なので90分持つ課題をしっかりと用意している。

Q 4 : ギリシア人の一体感とアテネ、スパルタなどの各ポリスの性格の違いという齟齬をどのように生徒に説明したらよいのか? (ヨーロッパの日本人学校に勤務している時にギリシアに見学旅行に行った経験より)

(風連・室田)

A 4 : 古代と現代のギリシア人は異質なもので

ある。400年間のオスマン＝トルコの支配などを通じて色々な血が入ってくる中で現代のギリシア人が形成されていったから簡単には答えられない。

### ▼第36回大会予定

「中世総合資料学と歴史教育」(仮)と題し、日本史研究会と共催の形で公開シンポジウムを予定しています。

日 時 平成17年8月4日(木)・5日(金)  
会 場 札幌学院大学SGUホール  
記念講演 佐々木史郎氏(国立民族学博物館教授)  
「北方の交易民」(仮題)

※北方史に関する各研究者からの研究成果の発表と、歴史教育の現場からの報告を合わせた内容になる予定です。詳細につきましては、後日各学校に案内等を送付致します。

---

@世界史研究会のホームページ@

→  北海道高等学校世界史研究会

<http://www2.snowman.ne.jp/~ennui/kouseiken/>

---

#### ■編集後記■

会報第11号の発行となりました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。  
また35回研究会の記録を担当していただいた先生方には、お忙しい中、記録原稿の作成をしていただき、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、いつものように編集作業が遅れ、関係の先生方にいろいろとご迷惑をおかけしましたことをお詫び致します。

(岩見沢東・中川雅史／札幌南陵・吉田 徹)